

目標指標（案）の設定について

目標の考え方

（内閣府地方創生推進事務局 中心市街地活性化基本計画認定申請マニュアルより抜粋）

目標

- ・ 中心市街地活性化の基本方針に合致した目標を設定する。

目標指標

- ・ 目標の達成状況を的確に把握できるように、定量的な指標を設定する。
- ・ 絶対値の改善はもちろんのこと、一定地域内でのシェアの改善や過去の傾向と比較した変化率の改善等を採用することも考えられる。
- ・ 一つの目標に対して複数の目標指標を採用することもできる。

目標値

- ・ 基本計画の事業等の効果との整合性を踏まえながら、合理的な手法で算定する。
- ・ 個々の事業効果について根拠や考え方をデータに基づいて示すとともに、社会経済情勢等の変化も考慮し、基準値（計画期間が始まる前の目標指標の状況を示す値）に目標指標のトレンドを加味した上で設定する。

参考指標

- ・ 中心市街地の活性化の状況をよりの確に把握するために、目標指標を補完する指標を「参考指標」として設定することができる。
 - 目標指標に大きな影響を与える指標
 - 目標の達成状況をより良く示す指標
 - 目標指標の目標値を目指すために必要なコスト
 - 前回計画の目標指標
 - アンケート等の社会調査手法を活用した地域住民の意識調査の結果 等

基本方針① 多世代が交流する、便利で住みよいまちづくり

まちなかの空き家・空き店舗等の既存ストックの活用により、多様な人々が働く場や交流の場をつくる。また、市全体の都市機能を支えるとともに、まちなか居住の拠点として、買い物や移動、通院などの利便性が高く、子どもが遊び・学べる環境が充実した、多世代が暮らしやすく、住んでみたいと思える環境づくりを進める。

<細目方針>

- まちなかでの仕事・暮らしのコーディネート
- 子育て世代が暮らしやすい生活環境、建物づくり
- 歩いて生活できる環境づくり

<目標指標（案）>

①中心市街地社会増減数【継続】

○定義

区域内の居住人口の社会増減数（転入者数－転出者数）

○設定理由

- ・まちなかの空き家・空き店舗等の既存ストックの活用により、多様な人々が働く場や交流の場をつくり、まちなかの居住を推進する必要があるため。
- ・中心市街地の居住地としての魅力に紐づけられる指標として、区域内人口の社会増減は居住人口総数（自然増減にも左右される）を指標とするよりも有用であると考えられるため。
- ・継続指標であるため、活性化の取組による経年変化が長期で把握できるため。
- ・多くの事業のアウトカム指標として効果計測が期待できるため。

②中心市街地の45歳未満居住人口【新規】

○定義

区域内の45歳未満の居住人口（ファミリー層・生産年齢人口の定着の目安として）

○設定理由

- ・「子育て世代が暮らしやすい生活環境、建物づくり」により、若年層及びファミリー層を擁する世代が多く居住し、中心市街地の新陳代謝が図られている様子を把握できるため。
- ・多くの事業のアウトカム指標として効果計測が期待できるため。

③中心市街地への移住者数【新規】

○定義

伊賀市の移住コンシェルジュを通して中心市街地へ移住してきた人数

○設定理由

- ・移住コンシェルジュを通じて伊賀市への移住に前向きな検討をして実行された方々の実態を把握する数値として、その効果が捉えやすい指標であるため。

④子育て包括支援センター年間利用者数【新規】

○定義

伊賀市子育て包括支援センター（ハイトピア伊賀）の年間利用者数

○設定理由

- ・子育て支援の事業効果を直接的に捉えやすい指標であるため。
- ・ただし、まちなか全体の子育て世代が暮らしやすくなっているかというアウトカムの視点からは十分な把握が難しい。

⑤中心市街地の歩行者・自転車通行量【継続】

○定義

中心市街地6地点の歩行者・自転車通行量の合計値

○設定理由

- ・「歩いて生活できる環境づくり」を最も直接的に把握できる指標であることと、特に日常の車利用が多い地方都市においては、歩行者・自転車の通行量が維持・増加することが、まちのにぎわいにとって重要な要素であるため、引き続き注視すべき目標指標として定める。
- ・継続指標であるため、活性化の取組による経年変化が長期で把握できるため。
- ・多くの事業のアウトカム指標として効果計測が期待できるため。
- ・今後も引き続き指標として把握するため、デジタルを活用したデータ入手について検討する。

（検討例）

指標：中心市街地における通行人口

調査手法：アプリ等の位置情報データを利用し、中心市街地内の一定エリアにおける1年間の通行人口（徒歩）を集計する。

<算定根拠とする対象事業>

【第2期計画からの継続事業】

- ・伊賀市空き家対策総合支援事業
- ・町家等修理修景事業及び助成事業
- ・伊賀市合併処理浄化槽設置整備事業
- ・子育て包括支援センター事業
- ・ファミリー・サポート・センター事業
- ・古民家等再生活用事業
- ・にぎわい忍者回廊整備事業
- ・ふれあいプラザひまわり運営事業
- ・まちなか移住コンシェルジュ事業
- ・まちなか居住のための支援事業（情報発信含む）
- ・コミュニティ受入態勢構築支援事業

【検討中事業】

- ・まちなか居住促進事業（仮）

基本方針② 回遊したくなるまちなかの魅力づくり

既存の歴史的資源や空き家・空き店舗の活用により立ち寄り拠点を作るほか、物産品、宿泊、体験メニュー等既存の資源を提供することで魅力を高める。また、それらをつなげる工夫により、歩いて楽しい通りづくりを進め、まちなか周遊への誘導を図っていく。

<細目方針>

- 歩いて楽しい、立ち寄りたくなる城下町の拠点づくり
- 既存の魅力ある資源の活用・磨き上げ・情報発信

<目標指標（案）>

①中心市街地の観光交流施設の利用者数【継続】

○定義

伊賀市中心市街地での観光客・来街者数を把握

対象とする中心市街地の観光交流施設：

- ・伊賀上野城
- ・伊賀流忍者博物館
- ・だんじり会館
- ・蓑虫庵
- ・芭蕉翁記念館
- ・芭蕉翁生家
- ・旧小田小学校
- ・伊賀伝統伝承館
- ・西町やかかん【**新規**】
- ・赤井家住宅【**新規**】
- ・NIPPONIA HOTEL 伊賀上野 城下町 KANMURI【**新規**】
- ・（仮称）忍者体験施設【**新規**】

※これまで対象としている「観光交流施設」では城下町の回遊性を十分測れないため、城下町の主要な施設を対象として追加する。

○設定理由

- ・エリア内の複数の観光交流施設の利用者数の増減により、忍者をテーマとした取組事業等の実施による、まちなかの回遊性の向上の状況を把握することが可能なため。
- ・また、個々の拠点についても魅力の向上が実現しているかを把握できるため。
- ・継続指標であるため、活性化の取組による経年変化が長期で把握できるため。

②中心市街地内の宿泊者数【**新規**】

○定義

中心市街地に立地する宿泊施設の年間宿泊者数の合計

○設定理由

- ・宿泊を促進することにより滞在時間は長くなり、立ち寄る拠点が増え、ひいては回遊性の向上につながることを期待できるため、その効果を把握するための指標であるため。
- ・ただし、その他の来訪者・居住者の回遊性については十分な把握が難しい。

③伊賀鉄道駅乗降人員【新規】

○定義

中心市街地エリア内の伊賀鉄道4駅の乗降人員

○設定理由

- ・まちなかに立ち寄り拠点を増やし、体験メニュー等の既存の資源の提供により魅力を高め、回遊を促進することが必要であるため、その効果を把握するための指標となり得るため。
- ・ただし、伊賀鉄道による調査では特定の1日の数値となっているため、事業効果を把握する指標として用いるには検討の余地がある。

④空き店舗等活用件数【継続】

○定義

対象事業の実施により空き店舗が活用された件数

○設定理由

- ・歴史的なまちなみを形成している住宅や店舗が空き家・空き店舗になると、魅力であるまちの風情が喪失されてしまう。当指標で、空き家・空き店舗を既存の資源として活用している状況を把握することが可能であるため。
- ・継続指標であるため、活性化の取組による経年変化が長期で把握できるため。
- ・多くの事業のアウトカム指標として効果計測が期待できるため。
- ・住居と併用しているため活用につながっていない物件が問題となっていることから、このような物件についても併せて把握することが望まれる。

⑤伊賀上野まち百貨店出店者数【新規】

○定義

「伊賀上野まち百貨店」への出店者数

○設定理由

- ・既存の商店街の個店の魅力向上や情報発信によりまちなかの回遊性を促進することが必要であるため、その効果を把握するために「まち百貨店出展者数」を指標として提案する。

⑥「伊賀上野まち百貨店」公式インスタグラムフォロワー数【新規】

○定義

「伊賀上野まち百貨店」公式インスタグラムのフォロワー数

○設定理由

- ・既存の商店街の個店の魅力向上や情報発信によりまちなかの回遊性を促進することが必要であるため、その効果を関心層の数の側面から把握するための指標となり得るため。
- ・効果の把握が当事業のみに限られる可能性がある。

⑦伊賀鉄道一日フリー乗車券の発売枚数【新規】

○定義

伊賀鉄道を1日何度でも乗降できるフリー乗車券の発売枚数

○設定理由

- ・伊賀鉄道は伊賀市の重要な地域資源と捉えられていることから、この利用がどの程度されているのかを把握するための指標となり得るため。
- ・ただし、資源活用の効果について、伊賀鉄道のみ限定される。

<算定根拠とする対象事業>

【第2期計画からの継続事業】

- ・町家等修理修景事業及び助成事業
- ・伊賀市合併処理浄化槽設置整備事業
- ・古民家等再生活用事業
- ・にぎわい忍者回廊整備事業
- ・ふれあいプラザひまわり運営事業
- ・伊賀市起業・経営革新促進事業
- ・忍者市プロジェクト事業
- ・伊賀上野 NINJA フェスタ開催事業
- ・起業者支援システム整備事業
- ・商業集積再生事業
- ・空店舗等情報システム整備及びコンサルタント事業
- ・魅力ある店舗創出とPR事業
- ・「まちなか市」開催事業
- ・伊賀上野まち百貨店開催事業
- ・伊賀ぶらり体験博覧会「いがぶら」開催事業
- ・周遊性向上事業

【検討中事業】

- ・まちなか空き店舗活用推進事業（仮）
- ・史跡上野城跡及び伊賀上野城下町における歴史的資源を活かしたまちづくり推進事業
- ・文化振興事業
- ・新まちなか市「伊賀マルシェ」開催事業
- ・にぎわい拠点創出事業
- ・上野南部地区散策事業

基本方針③ 伊賀の強みを誇りとして継承するまちづくり

中心市街地から伊賀市全体へと活性化を波及させるべく、まちの良さを市民自身が認識し受け継いでいくとともに、持続的・安定的・創造的なまちのにぎわいづくりを官民連携の新たな担い手により進める。

<細目方針>

- 次世代に伝えたい「伊賀らしさ」の共有と継承
- 官民連携による伊賀らしさを活かすにぎわいづくり
- 誰もが参加できる情報共有・交換の場づくり

<目標指標（案）>

①上野天神祭来場者数【新規】

○定義

「上野天神祭のダンジリ行事」への来場者数

○設定理由

- ・伊賀の強みを守り誇りとして継承するまちづくりの象徴として、市民にも伊賀独自の資源として認知されており、国指定重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産でもある「上野天神祭」への来場者数を指標として提案する。
- ・ただし、天候による影響を大きく受けることから、効果を正確に把握できない可能性がある。

②イベント参加者数【継続】

○定義

中心市街地で継続的に実施されているイベントの参加者数の合計値

○設定理由

- ・中心市街地のにぎわい創出に関して、どの程度の交流人口が中心市街地で発生しているかを把握できる指標であるため。
- ・ただし、コロナ禍に中止するイベントがあったこと、結果が天候に左右されること、データの継続性の観点等から事業の達成効果を評価することが難しい。

③中心市街地における新規開業数【新規】

○定義

区域内で新規開業した店舗・事業所数

○設定理由

- ・当指標により、伊賀らしさや伊賀の強みを活かし、にぎわいを創出しながら次世代へ継承する取組の状況を把握することが可能なため。
- ・新規開業数により、中心市街地の次世代を担う新しい人材による持続的なまちづくりの側面も図ることが可能と考えられる。

<算定根拠とする対象事業>

【第2期計画からの継続事業】

- ・伊賀市空き家対策総合支援事業
- ・伊賀市合併処理浄化槽設置整備事業
- ・古民家等再生活用事業
- ・にぎわい忍者回廊整備事業
- ・伊賀市起業・経営革新促進事業
- ・忍者市プロジェクト事業
- ・伊賀上野 NINJA フェスタ開催事業
- ・ライトアップイベント「お城のまわり」開催事業
- ・起業支援システム整備事業
- ・空店舗等情報システム整備及びコンサルタント事業
- ・プレイヤー誘致事業
- ・魅力ある店舗創出とPR事業
- ・市民夏のにぎわいフェスタ開催事業
- ・伊賀上野まち百貨店開催事業
- ・伊賀ぶらり体験博覧会「いがぶら」開催事業

【検討中事業】

- ・駅前広場利活用事業
- ・ユネスコ無形文化遺産 上野天神祭のダンジリ行事開催事業
- ・上野城薪能開催事業
- ・文化振興事業
- ・子ども第三の居場所事業
- ・伊賀上野灯りの城下町開催事業